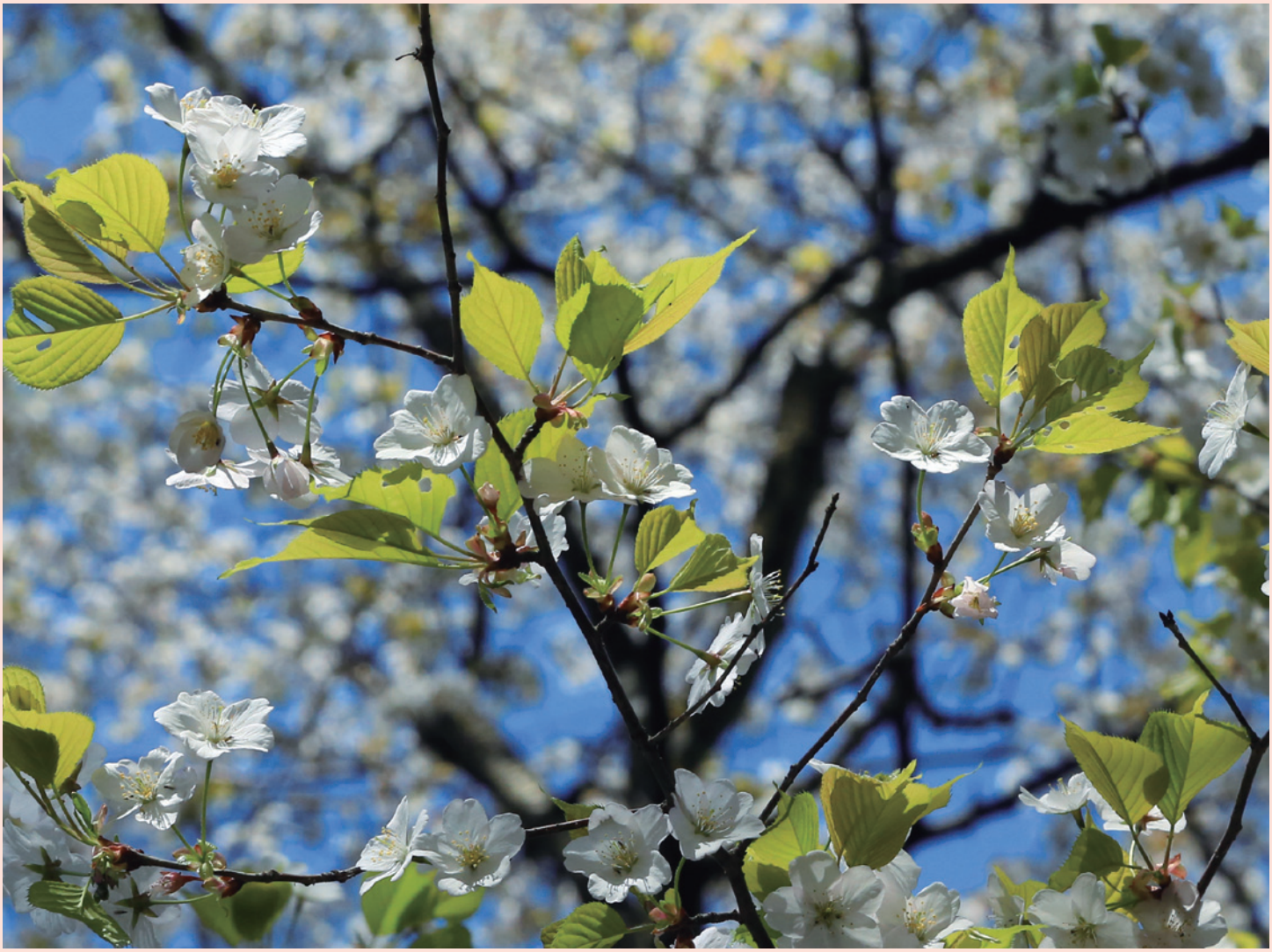
Mar.2015 No.364

福井市自然史博物館

# 博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



カスミザクラ *Prunus verecunda* 足羽山にて吉澤康暢館長撮影（2014 年 4 月 23 日）

## 福井の自然史情報

## 足羽山に自生するカスミザクラ

足羽山には植栽されたソメイヨシノだけでなく、ヤマザクラなど数種類のサクラが自生しています。写真は４月中旬から下旬に咲くカスミザクラです。カスミザクラはヤマザクラより開花が遅く、葉や花などが無毛のヤマザクラとは対照的に葉や葉柄（ようへい）、花柄（かへい）、がく筒（とう）に毛があることから、別名ケヤマザクラとも呼ばれます。このカスミザクラが満開になると、名前のとおり足羽山に霞（かすみ）がかかったように見え、春の深まりを感じさせてくれます。

中面に足羽山のサクラについて、裏面に桜染についての解説があります。

●キンキマメザクラ
〈3月下旬〉

●エドヒガン
〈3月下旬～4月上旬〉

●ソメイヨシノ
〈3月下旬～4月上旬〉

●シダレザクラ
〈4月上旬〉

●ヤエベニシダレ
〈4月上旬〉

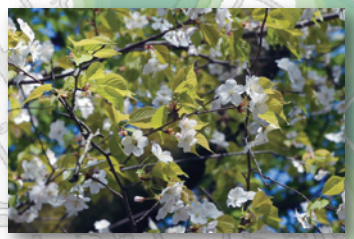
# 足羽山のサクラまっぷ

足羽山では3月下旬から4月下旬にかけて、
様々なサクラの花を楽しむことができます。
〈括弧内は足羽山での花期を示しています〉

福井市愛宕坂茶道美術館
福井市橘曙覧記念文学館
足羽神社
福井市自然史博物館
藤島神社
FBC送信所
朝日山不動寺
西墓地公園
慰霊碑塔
NHK送信所
平和塔
郷土植物園
福井テレビ送信所
足羽山公園遊園地

●ヤマザクラ
〈4月上旬〉

●オオシマザクラ
〈4月中旬〉



●カスミザクラ
〈4月中旬～下旬〉

●ウワミズザクラ
〈4月下旬〉

- キンキマメザクラ
- エドヒガン
- ソメイヨシノ
- シダレザクラ
- ヤエベニシダレ
- ヤマザクラ
- オオシマザクラ
- カスミザクラ
- ウワミズザクラ

このほかにも足羽山では、ウスゲヤマザクラ(ヤマザクラの微毛のある品種)、チョウセンヤマザクラ(カスミザクラの開出毛の多い品種)、サトザクラ(オオシマザクラの園芸品種の総称)などが見られます。

福井市自然史博物館　第79回特別展

# むしむし美術館

## ～神様のデザイン、人々のアート～

開催期間　2015年3月21日(土・祝)～5月17日(日)

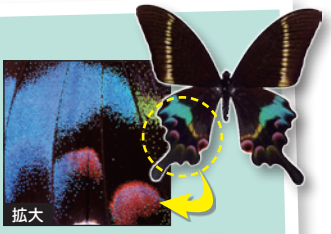
世界に100万種以上が生息する昆虫。その多様な色彩や形態はまさに自然が作り出した秀逸なデザインといえます。今回の特別展では、モルフォチョウをはじめ美しい色彩や模様をもつチョウやいかめしい大顎を持つクワガタムシなど、多彩な昆虫の実物標本に加え、昆虫の模様や構造のクローズアップ写真を通して昆虫の形態や色彩の美しさを紹介し、そこに秘められた彼らの生きるための知恵にも迫ります。

加えて、チョウの翅(はね)を材料にした切り絵、世界各地の昆虫切手や昆虫の革製拡大模型など、昆虫に魅せられた人々の芸術作品もあわせて展示し、自然と人間の芸術作品の共演を通して昆虫の美の世界へと誘います。(学芸員 梅村信哉)

### ①チョウたちの彩

世界に約18,000種が知られるチョウ。その翅は鱗粉で覆われ、種独特の色彩や斑紋が現れます。色とりどりの鱗粉がモザイク絵のように緻密に並んで作られる模様や、表面に微細な溝を持った鱗粉が規則正しく並び、特定の波長の光のみを反射する効果によって作り出される美しい輝きは、自然が作り出した第一級のデザインです。青く輝く翅を持つモルフォチョウ、金緑色を基調として美しい模様を持つタカネクジャクアゲハなど、世界でも有数の美蝶の実物標本とその翅の模様のクローズアップ写真で、チョウの美しさを紹介します。

福井県に生息する美しいチョウたちの標本も展示します。意外と身近にいる美しき舞姫たちの姿にぜひ注目してください。



タカネクジャクアゲハ
(下野谷豊一氏所蔵)

ギフチョウ
(当館所蔵)

### ②甲虫の美

ホウセキゾウムシの1種

カブトムシやクワガタムシ、タマムシなどを含む甲虫は世界に37万種以上が知られています。鎧のような硬い体、カブトムシの角やクワガタムシの大あごなどの造形が魅力的なものもいれば、タマムシやコガネムシのように輝く金属光沢を持つもの、テントウムシのようにかわいらしい模様を持つものもいて、色彩の面でもチョウに負けません。また、甲虫の体をクローズアップしてみると、体の表面に点刻や隆起などがあり、ミクロな造形美を楽しむこともできます。実物標本、微小甲虫の拡大写真や甲虫の体のクローズアップ写真で、甲虫の美しさを紹介します。

ニジイロクワガタ
(当館所蔵)


ホウセキゾウムシの1種
(当館所蔵)

### ③身を守るためのデザイン

コノハチョウ(裏面)
(当館所蔵)

昆虫には、周りの環境にうまく溶け込んで身を守るものがいます。枯れ草や樹皮にそっくりの色で外敵の目を逃れる昆虫たちは自然の隠し絵、木の葉や枝、虫のウンチや時には毒のあるハチなどにそっくりな姿をして身を守る昆虫たちは自然の模写といえるでしょう。一方で、スズメバチのように自分に毒があることをアピールするためにわざと目立つ色彩をした昆虫たちもいます。枯葉そっくりのコノハチョウ、ハチにそっくりのアブやカミキリ、毒を持つもの同士で互いに似通って身を守るドクチョウの仲間など、身を守るための巧みな知恵を持った昆虫たちを紹介します。

### ④世界各地の昆虫切手

アカエリトリバネアゲハ
(伊藤勝幸氏所蔵)

世界には約12,600種類の純昆虫切手が発行されています(2010年現在。純昆虫切手とは、描かれた図案から昆虫の種類がわかるもの)。世界最初のチョウの切手であるアカエリトリバネアゲハをはじめ、世界各地の切手を一同に展示します。また、切手のモデルになった昆虫の実物標本も展示します。切手の図柄と実物の昆虫をぜひ見比べてみてください。

世界最初のチョウの切手
(アカエリトリバネアゲハ
サラワク王国、1950年発行)

### ⑤北陸初！ヘラクレスの館

展示期間中、博物館ロビーに「ヘラクレスの館」が登場します。生きたヘラクレスを間近に見るチャンス！

ヘラクレスオオカブト
(当館所蔵)

自然史リレーエッセイ 35

# 桜染の話

石川　雅夫
（福井市自然史博物館協力員・染色家）

サクラというのは日本人にとって特に思い入れのある木であり花であります。それは私にとっても同様で、早春にサクラで染めてきれいな色が出ると、ひと際うれしく感じるものです。

私は平成9年の春に上志比に引っ越してきました。当時、家の裏手のヤマザクラは切り株同様の姿で、カキノキも実がなっていませんでした。それまでずっと空き家だったので、家の周りの敷地は除草剤が撒かれていたのだと思います。私が家の前の畑にて無農薬、無化学肥料で野菜を育てるようになると、家の周囲の土壌の環境も良くなっていきました。そのせいかヤマザクラの木も大きくなり、カキノキも実をいっぱいつけるようになり、その辺りは絶滅危惧種のキバナノアマナが早春にきれいな花を咲かせるようになりました。

今ではヤマザクラも家の屋根よりも大きくなり、春には花がとてもきれいです。私は薪ストーブで染色をしていますが、薪の灰を畑やヤマザクラのあたりにも撒きます。すると、花数も多くなり、花の赤みがだんだん増してきているように感じます。民話の花咲か爺さんという話がありますが、あれもまんざら根拠のない話でもないような気がします。

実際の染色の話ですが、桜染というと、大抵の方は花で染めるのですかと尋ねられます。でも使うのは枝なのです。福井は雪が多く、雪で枝が折れることも多いので、それを利用することもあります。

ヤマザクラの開花（2013年4月9日）

が、通常は花が咲く前の2月から3月にかけて枝を剪定し、細かく切って煮出します。花にいく色がまだ枝に残っている時に使うのです。枝の表皮にタンニン分の茶色、その下に黄色、そして中の部分にピンク色の色素があります。それで、きれいなピンク色を染色で出すためにはいろいろ工夫が必要です。そして自然のものですから、その年の天候、雪の量などでも色に影響が出るようです。

早春の桜染でピンクや薄いグレーを出すのは難しいですが、毎年ワクワクします。夏になって葉が茂っている頃に染めると赤茶色の濃い色になりますから、花の色をイメージした色を出すのは、春の季節限定の染色になります。

サクラは四季折々とても美しい木です。冬、枝に雪が積もって花が咲いたような感じもいいものです。枝を使って染めた後も、4月は花が本当にきれいです。葉桜よし、紅葉もきれいで大好きな木です。

左：冬のヤマザクラ
（2015年2月9日）
右：桜染のストール
（2013年3月22日）

**《あとがき》**

今号ではサクラにまつわる話題として、当館で草木染教室の講師をしていただいている石川氏に、サクラを使った草木染についてのエッセイを書いていただきました。先生の文章からは、草木染を通して植物の持つ色彩を楽しむことや、植物を慈しむという思いが強く伝わってきました。

当館では、3月21日から5月17日まで第79回特別展「むしむし美術館～神様のデザイン、人々のアート～」を開催します。多彩な昆虫の実物標本や、昆虫の模様や構造のクローズアップ写真などを一堂に展示します。昆虫の美の世界をぜひご覧ください。（中村）

**《交通案内》**

**【電 車】**
●福井鉄道福武線 公園口駅 徒歩20分

**【バ ス】**
●京福バス：清水グリーンライン（74系統）足羽山公園下バス停（あじさいの道登る）、不動山口バス停（藤島神社登る） 各徒歩10分
●コミュニティバスすまいる：西ルート（足羽・照手方面）愛宕坂バス停 徒歩10分

**【徒 歩】**JR福井駅から徒歩30分

**《ご利用案内》**

開館時間 ●午前9時～午後5時15分（入館は午後4時45分まで）
休 館 日 ●月曜日（祝休日は開館）、国民の祝休日の翌日、年末年始
入 館 料 ●高校生以上100円（20名以上の団体は半額）
中学生以下、70歳以上、
障害者および付添の方は無料

編集・発行　福井市自然史博物館
〒918-8006 福井県福井市足羽上町147 TEL:0776-35-2844 FAX:0776-34-4460
E-mail:sizen@city.fukui.lg.jp URL:http://www.nature.museum.city.fukui.fukui.jp

PRINTED WITH SOY INK